

6 . 今後の課題

本設計では、基本構想及び基本計画における理念・考え方・方針に基づき、各種補足調査を行い、各ゾーン・エリアにおける事業の具体化に向けて、保全を軸にした初期整備に向けての実施設計等の指標となる設計を行うとともに、維持管理等による保全の内容について検討設定を行った。

モニタリング及び試行検証の実施や実施設計の策定に向けて、本基本設計で示した具体的な方向が十分に継承されそして実現されるよう、特に以下の点に留意するものとする。

1) ため池や湿地等の谷戸の水環境に関する事項

● ため池の安全性確保のための詳細な調査の実施

ため池は、長期間の放置に加えて、満水状態で維持がなされていること、ため池下部の湿潤が進んでいることから、今後堤体部でのボーリング、漏水調査等詳細な調査を実施し、実施設計策定の段階で、堤体の安全性を再検証し、その結果を踏まえて堤体補強や水質・底質の改善方法等を検討する。

● 水系全体でバランスの取れた水環境への配慮

水路の洗掘・浸食が進行する中で、河床の低下が湿地の乾燥化を引き起こしつつあり、植生面でも変化が見られ、初期整備までの期間にさらに進行することから、これらを防ぐ措置を早急に行う必要がある。

そのため、洗掘防止対策等のモニタリングや試行検証を実施し、保全方策を検証する必要がある。

特に北鎌倉女子学園グラウンドからの雨水が谷戸の左岸側の水路に合流するため、浸食の度合いがその下流で激しくなっている。そのため、植生の変化が生じないよう、水路の分水や湿地へ導水することにより、湿地環境の保全を図る必要がある。

2) 樹林地等の保全管理とモニタリング調査に関する事項

● ハンノキ群落及びヨシ群落等の湿地環境及び樹林の保全に向けての着実な対応と調整

本緑地においては、台峯及び倉久保の谷戸におけるハンノキ林及びヨシ原等の保全が主要課題である。これらの保全には水源の確保等の基盤整備とともに、湿生から乾性に向かう遷移の仕組みを止めるあるいは戻すための人為的な措置が必要となる。

そのため、試行及びモニタリングによる検証を含めて着実な対応を図る必要がある。

特にこれらの保全に際しての具体的な取り組みを、公有地化の状況に応じて、いつ、誰が、どこから、どのように行うかを、今後、市及び市民との間でより密接に調整することとなる。

また、モニタリング項目・方法の設定についても、必要性和かけられる労力・費用、得られる協力等との調整を図りつつ適切な対応を図ることが望ましい。

3) 市民の参画と協働に関する事項

● 市民と行政が一体になった仕組みを築き、台峯にふさわしい組織づくりにむけて

本設計においても示したが、本緑地の保全を図るためには、維持管理計画の策定や、効果的な保全プログラムの策定が求められる。そのためには活動の基盤となる組織づくりが欠かせない。

モニタリング及び試行検証を軸に保全を図るためには、専門性に加えて、労力等の負担が生じる可能性があり、その理解と協力を踏まえた対応が求められる。

今後の実施に向けては、そのための組織づくりに向けての意見交換や検討、合意形成を図りつつ進めていくことが重要である。

4) 公園名称に関する事項

● 市民自らが守り続けてきた経緯を尊重した台峯にふさわしい公園名称の設定について

供用開始後の公園名称は、全面保全に向けた市民の懸命の努力によって守られた経緯を尊重し、供用を開始する前段階で、市民の意見に基づき、決定する。